

紅忠スチール

鋼製メーターボックス扉の販売好調

タワーマンション向け強化

紅忠スチール（本社・東京都中央区、社長・大越政幸氏）が販売するマンション用の鋼製メーターボックス扉「アイコモン（icomon）」の写真が好調だ。2016年に野村不動産、稲葉製作所の3社で共同開発し

以降、出荷戸数は21年度までに累計2356戸に到達。既に24年度の大型物件にも採用が決定しており、今後はラインアップを拡充してさらなる受注拡大を目指す。

アイコモンはマンション用の鋼製メーターボックス扉で、従来型の扉では現場での溶接や塗装作業が必要となるが、扉の差し込み方式を採用し国内工場の製造ラインで規格化する。製造・品質を安定化、現場施工工期を大幅に短縮できる。

これまでは中層階のマンションや集合住宅で受注を拡大してきたが、より戸数が多い大

型のタワーマンション仕様のメーターボックス扉を21年に野原産業エンジニアリング、稲葉製作所の3社で共同開発し都内の大型タワーマンション物件を初めて受注。野原産業エンジニアリングの施工によりこのほど完工した。

大越社長は「施工の簡素化、工期の短縮、国産による品質の良さが評価されており、今の建設市場のニーズに合致している」と特長を強調。「施主やゼネコン、設計会社への織り込み営業を全国的に展開するとともに、今後は付随するトランクルーム用もラインアップに加えて受注を増やしていきたい」としている。

